

【議論 2】 掲載テーマの絞り込み

議論 1 で出た掲載テーマは以下のとおりです。

- ①小学校でのごみの出前授業、ごみ減量と教育の関係について
- ②海ごみとプラスチックスマート（プラスチック廃棄と環境負荷）
- ③能登半島地震から 1 年経過した節目に、災害廃棄物対策の啓発記事
- ④過去に連載した「ごみのゆくえ」をもう一度掘り下げる
- ⑤「ものとの付き合い方」「ごみとの付き合い方」に関する世代ごとの違いを学ぶ
- ⑥衣類のリサイクルとエシカル消費
- ⑦草や枝の自家処理の推進

テーマと選定した理由

①小学校ごみの出前授業

- 今年から食品ロス対策（ごみ分野）と食育を合わせて学校給食課と合同授業を行っているが、市民にまだ認知されていない。
- 子ども達のごみの減量に興味を持って取り組んでいると知ることが、大人の行動を変えることにつながるのでは無いか。（子どもがやっていて大人がやらない訳にはいかない）
- 可燃ごみの中の食品ロスについては、水分量も多く重いので、搬入量の面や燃焼時の環境負荷の面からもぜひ取り上げるべき。

②海ごみとプラスチックスマート

- 溪谷と河川に囲まれた「あきる野市のアイデンティティ」だからこそ、川の清掃・川のごみが最終的に海ごみ、マイクロプラスチック問題に関係していることを伝えるべき。
- 河川の上流の町がもつ清流を守る責務について、ぜひ伝えたい。

③能登半島地震から 1 年を契機に災害廃棄物に関する記事

- へらすぞうの発行が 2 月を予定していることから、災害から 1 年という節目に災害廃棄物の問題を扱いたい。
- ごみの減量が、減災対策にもなるということ、ごみ処理が生活の復興とも直結しているという現状を伝えたい。

④過去に連載した「ごみのゆくえ」をもう一度掘り下げる。

- これまで載せている生ごみの堆肥化やプラごみなどについては「環境への意識が高い人」には興味があるかも知れないが、一般の方には「自分と距離のある話」と感じてしまうかも知れない。
- ごみになったその先のこと（どうやって処理されるか、資源化する工程）を伝えないと、資源にな

るものも可燃ごみや不燃ごみに入れられてしまう。ごみを資源にする動機付けをしたい。

⑤「もの・ごみとの付き合い方」の世代ごとの違いを学ぶ

- 年を重ねた世代がもつ「ものを大事に直して使う」「そのまま捨てるのはもったいない」という意識と、若い世代やミニマリストなどが持つ「ものを所有しない」「多くを買うよりも厳選した物しか買わない」という倫理感は、互いに共感でき、学び合うべき。
- ごみ会議の中にも20代から80代の委員がおり議論の中で価値観の違いに気づかされることもある。世代ごとの「ものを大切に扱う文化」を尊重したらごみを減らすことに繋がる。

⑥衣類のリサイクルとエシカル消費

- 環境フェスティバルの啓発チラシ作成時に、ごみ会議で議論が盛り上がったものの、表現が難しく取り上げなかった衣類のリサイクルを再度扱いたい。
- 昨年食品ロスに関する外部講師を呼んだ講演会で、エシカル消費（環境倫理に配慮した消費行動）について取り上げたが、まだなじみの無い言葉なので、周知したい。

⑦草や枝の自家処理の推進

- ごみ処理において、水分量の多いものを焼却する際の費用対効果、環境負荷についてもっと知ってもらうことが肝要である。
- 草刈りなど多くの人が行うが、そのまま大量にボランティア袋に入れて捨てる光景を一斉清掃などでも見ることがある。それがどのように環境に影響しているか出す側は意識していない。とにかく目の前から草が無くなればそれで良いという価値観はいかかなものか。
- 土から得た物を土に還すという環境倫理を小さいころから身につけて欲しい。

①から⑦のテーマを絞り混んだ経過

環境フェスティバルで配布した啓発チラシは「**分別に興味がない人も、仕組みが分かれば分別したくなる**」をコンセプトに作成していたが、『ごみ情報誌へらすぞう』についても「**これまでごみ問題に興味関心が薄かった人達を巻き込める内容**」にしたい。

分別を十分に意識していない人を巻き込むには動機付けが重要だと考え、処理の仕組みと出し方によって、どのように最終処理物が変わってくるかを訴求する**テーマ④「ごみのゆくえ」をメインテーマ**にすることとした。

また、前回掲載テーマが食品ロスだったことから、衣・食・住と連作にして掲載するものもおもしろいとの意見もあり、⑤「もの・ごみとの付き合い方：世代ごとの違いを学ぶ」と⑥「衣類のリサイクルとエシカル消費」をあわせて「**衣類のリサイクル**」として**サブテーマ**にすることにした。

最後に、あきる野市の住環境の特性上、雑草の処理に困っている人達も多くいることが議題にあがった。

前回の会議の中で昨年度の反省に「ターゲットをもっと明確にして、その人達に刺さる記事にしなければならない」との話があった。

あらためて、今回どういう人達にこの冊子を読んで欲しいか考えたところ、あきる野市でイメージしやすい子育て世帯を対象にしようとなった。具体的に子育て世帯像を深掘りして、「30～50代の共働きの親と子ども2人、建て売りの戸建て住居で狭い庭がある」というような住環境をもつ人達を想定した。

忙しい中で、子ども達と一緒に取り組めて、手がつけやすく、ごみの減量に役立てられることを考えたときに、「雑草・庭木の自己処理」について取り扱うのが良いとの意見があった。

これまでも堆肥化については触れてきたが、土地がある程度大きかったり、堆肥にするにもある程度手間がかかったりという部分に抵抗感があるとなかなか着手してもらいづらいとの話もあった。

なるべく時短・手間をかけないで、簡単に多くの人に取り扱える内容ということで、堆肥化のまえの自己処理部分に触れた記事にしてはどうかという話になった。

テーマ選定のまとめ

メインテーマ

- ・ごみのゆくえ 仕組みを知ると分別したくなる

サブテーマ

- ・衣類のリサイクル 生活の中のごみをどのように考えるか、価値感の違い
- ・雑草・庭木の自己処理 簡単・手軽に手をつけやすいことからごみを『へらすぞう』



議論3 素案作成 へ続く